

■中里介山 小説家。「大菩薩峠」で大衆文学の一大巨峰を形成する一方、文壇から離れ、独自の人生観・処世観を貫いた。
なかざとかいざん
内閣発足・・・1885＝ 神奈川県西多摩郡羽村(東京都)で生れる。

帝国憲法発布1889＝ 4歳：

日清戦争始・1894＝ 9歳：

多摩の民権的気風の残照の中で育ち、キリスト教的社会主義の思想的洗礼を受ける。

子規句歌革新1898＝13歳：西多摩尋常高等小学校を卒業して上京。電話交換手となる。

田中正造直訴1901＝16歳：西多摩小学校の代用教員となり、熱心なクリスチャンの同僚教員久保川せき子と知り合う。
教科書疑獄・1902＝17歳：多大な影響を受けた小学校の恩師が死去。
日比谷公園・1903＝18歳：再び上京して小学校の教員となり、
日露戦争始・1904＝19歳：日露開戦を機に反戦詩人として立つが、
日露戦争終・1905＝20歳：戦後は懐疑的になって新たな宗教的模索をつづける。『同志』と雑誌を創刊して、短編を発表。
満鉄発足・・・1906＝21歳：『「今人古人」を処女出版した後、都新聞社へ入社、以後新刊批評などを手がける。

韓国併合・・・1910＝25歳：父が死去。『「氷の花」「高野の義人」などを同紙に連載、新聞小説の骨法を身につけた。
大逆事件判決1911＝26歳：大逆事件で幸徳秋水らが処刑され、先輩知己を失って深く沈潜するものがある。
明治天皇没・1912＝27歳：この前後、人妻や受付嬢と一時交渉を持つが、一方で独身会を組織して機関誌を発行。
大正政変・・・1913＝28歳：『その思いをこめて「大菩薩峠」の連載を開始、大衆文学の一大巨峰を形づくって行く。

この作品が大衆文学と見なされるのをよこばず、みずからは大乘小説、思想小説であると称した。

べつじん条約・1919＝34歳：『都新聞社を退社。

原敬首相暗殺1921＝36歳：『「大菩薩峠」第20巻で一段落し、出版や上演が行われる。

護憲三派圧勝1924＝39歳：『南多摩郡浅川村に{隣人学園}を創設。
治安維持法・1925＝40歳：『大阪毎日新聞・東京日日新聞に舞台を変えて「大菩薩峠」の連載を再開。
円本時代始・1926＝41歳：婦人画報記者石原とみ子を秘書役に、交渉を持つようになる。『隣人の友社を設立し、{隣人の友}を創刊。

世界恐慌・・・1929＝44歳：ほかに「浄る坂」「黒谷夜話」や、
海軍軍縮条約1930＝45歳：『夢殿』『小野小町』などの長編もあるが、『マスコミ的風潮を好まず、印刷機を購入して自家出版したこともあり、文壇から離れ、独自の人生観、処世観をつらぬいた。
*郷里羽村に定住。多摩の各地に草庵を結び、敬天愛人克己をスローガンに塾教育を実践して{西隣村塾}を開いた。額に汗して耕しながら学ぶという考えは青年期にトルストイの影響を受けて以来のもので、『上求菩提・下化衆生』の思想につながり、江戸期の農学者の著作を復刻している。大菩薩峠記念館も開設。

満州事変・・・1931＝46歳：中国、朝鮮を周遊。『「大菩薩峠」の続きを国民新聞に連載。
五一五事件・1932＝47歳：『「大菩薩峠」の刊行に対応、2巻分を書き下ろし。
国際連盟脱退1933＝48歳：{隣人の友}に、『「大菩薩峠」の続きを連載。
帝人疑獄事件1934＝49歳：『「大菩薩峠」の挿絵について著作権問題で紛争。
芥川直木賞始1935＝50歳：『「大菩薩峠」が映画化される。
二二六事件・1936＝51歳：衆議院に立候補したが落選。『映画化への不満表明で日活社長から告訴され、絶縁。
日中戦争始・1937＝52歳：隣人の友社から「漢詩提唱－杜甫」「漢詩提唱－白楽天」を刊行。
健保+総動員 1938＝53歳：石原とみ子と絶縁。隣人の友社から「百姓弥之助の話」「日本文学の墮落」「日本映画肅正論」を刊行。
第二次大戦始1939＝54歳：アメリカ合衆国を歴訪。
日米開戦・・・1941＝56歳：母が死去。*この年まで「大菩薩峠」を書き継ぐ。
・・・・・・1942＝57歳：『日本文学報国会入会勧誘を拒絶するなど、戦時下にも抵抗の意識を貫き孤高の態度を崩さず、
『{西隣村塾}に籠って農耕に従事していたが、
年金+総武装 1944＝59歳：『腸チフスで急逝した。